

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071501664		
法人名	公益財団法人大牟田医療協会		
事業所名	グループホーム ファミーユ	ユニット名	
所在地	福岡県大牟田市野添町20番地19		
自己評価作成日	2020年2月26日	評価結果市町村受理日	2020年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院3-13-11 サナ・ガリアーノ6F		
訪問調査日	2020年7月14日	評価確定日	2020年8月4日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の意向に沿って、日々の生活を支援している。医療連携において、同一法人の病院(外来・訪問診療・入院・リハビリ送迎)及び訪問看護ステーションと報告・連絡・相談を行い、疾患の対応や健康管理を行っている。地域とのつながりを保つ為、運営推進会議を開催して、地域を巻き込んだ話し合いを実施している。会議では、利用者の生活状況の報告や意見交換を行っている。施設では、地域住民や市内全域から、施設見学を、受け入れ、施設選びのポイントや必要とされる相談窓口の紹介を実施している。施設の花や野菜栽培において、関われる場面設定を行い、楽しんでいただいている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

“グループホームファミーユ”は2つのユニットがあり、それぞれ平成16年・17年に開設している。1階建ての建物であるが、天井は高く、天窓もあり、リビングも広く、開放感がある。入居後、すぐに馴染まれる方も多く、体調変化で入院された方も「ホームに帰りたい」と願われるなど、居心地の良いホームとなっている。3食の食事は職員の手作りで、旬の料理が作られている。アセスメントは主に職員が行い、職員全員で心身状況の変化等や各活動の「能力チェック」を行っている。介護支援専門員と職員が計画の原案を作成し、起き上がり、立ち上がり、歩行等の能力を確認し、ポータブルトイレの置き場所も個別に変えている。日々の行動障害に対しても、その背景を丁寧に確認し、運営推進会議等で報告する際も、「大きな声」等を「発声練習」と表現するなど、ご利用者の尊厳に配慮した取り組みが行われている。今後も毎月のケアの振り返りを行う機会を増やし、更なる介護計画作りに活かしていく予定である。

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ゆったり、ゆっくり、安心して暮らせるよう、支援している。	ホーム内に理念を掲示している。長く勤務する職員も多く、理念の中の「ゆったり、ゆっくり」等の言葉を大切にケアされている。行動障害の表現の仕方にも配慮し、ご本人本位の視点で解決策の検討が行われているが、職員の言葉遣い等が気になる時は、個別に注意するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	人情ネットワークに参加して、地域住民と地域活動のつながりを維持している。支援物資の供給が主となっている。	昨年までは人情ネットワークの活動で、高齢者と地域の方(子供達等)と交流し、“おにぎり”やお茶、味噌汁を提供していた(2020年はコロナで中止)。クリスマス会や敬老会ではフラダンス同好会やカラオケ同好会の方が盛り上げて下さり、ホーム前の冠水時は、民生委員の方々が視察に来て下さった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、地域における認知症の方々や高齢者の様々な問題に対する対処法を、話し合っている。施設前の生活と密接な道路のゲリラ豪雨による、通行不能に陥る事案の対策も、合わせて行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告・相談を行っている。	ホームの取り組みを報告し、災害対策や地域情報を共有している。参加者からの質問も多く、それぞれの立場からアドバイスを頂いている。道路の冠水事案について、参加メンバーの方が大牟田市に現状を訴え、市の方も状況確認して下さい、改善に向けた動きとなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例時、市役所、地域包括支援センターと連携して、対応している。	管理者がケアマネ連絡協議会主催の研修会の準備等に関わられている。災害時も研修部会が中心になり、大牟田市の各介護事業所の被害情報の共有を行うなど、大牟田市の担当者と一緒に活動している。市の会議(地域ケア会議等)にも参加し、情報交換を続けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者の心身状況に、配慮した対応を行い、拘束のない対応。	2018年から法人全体研修を増やし、他施設の身体拘束等の新聞の切り抜きを読み合わせする機会も作られている。管理者と職員は常に行動障害等の理由分析をしており、日々情報交換し、日誌等で全職員と共有している。主治医への相談も密に行い、家族への報告も行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者への声かけ、身体介護で、利用者の思いと、異ならないよう、配慮している。新聞の切り抜きも、活用している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の活用支援を行い、利用者・利用者家族の不安軽減を図っている。	管理者が社会福祉士や精神保健福祉士等の資格を有している。入居時に家族に制度を説明したり、入居後も制度の必要性を確認し、適宜制度が利用できる相談体制を整えている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書の説明には、細かく説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議・地域のネットワーク・民生委員、安心介護相談等へ、施設運営や意向を表している。	“ファミユ便り”を家族に毎月郵送している。家族の面会時は管理者等が日頃の状況を報告し、要望等を伺っている。入院後、早期退院を望まれる方もおられ、医師や看護師、職員との情報交換を行う中で、退院後は点滴通院を行いながら、元の状態に戻れた方もおられる。	コロナの影響で面会制限もあったことから、今後も更にファミユ便り等にご利用者個々の日々のご様子やケア内容を追加し、暮らしぶりの共有に繋げていく予定である。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者の支援のありかたや、介護の意味を、機会あるごと、説明している。	ユニット個々に、日々の業務の中で職員同士の意見交換を行い、申し送りノートや日誌も活用している。法人研修の機会を作り、多くの職員が参加できるように勤務調整をしている。	今後も更に、毎月のケアを振り返る機会（ケア会議等）を増やし、昼夜含めたケア現場の共有に繋げると共に、変化していくケアを適宜介護計画に反映していきたいと考えている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実務者研修・初任者研修等、勤務に配慮して、対応している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用は、本人の意欲、適性におうじて、行っている。	面接時は優しさや素直さ等を大切に採用している。料理上手、壁飾りが得意、畑仕事が得意など、職員個々の特技を発揮して頂いている。希望休(有給)を取りやすい環境を作ると共に、職員間の応援体制も取れるように努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権について、人権に関する記事を、スタッフで確認している。	管理者や主任は、職員が丁寧なケアを行っているかを確認し、長所を引き出すように努めている。「自分もいつか介護を受ける身になる」「自分がされたらどうか」等の視点を大切にすると共に、「できない所を手助けしている」と言う気持ちで接するように伝えている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加を促している。資格取得に向けて、支援を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、他の施設ケアマネや居宅ケアマネ、特養相談員と意見交換を行っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、本人・家族の必要とされていることを、見つけ、支援する。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴し、本人・家族の必要とされていることを、見つけ、支援する。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護の現場は、常にその時であり、必要とされる事案に対して、支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	受け身でなく、自発的に動ける支援を行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人・家族・スタッフで、喜びあえる関係性。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで、大切にしてきた馴染みの人や場所を、事細かに、説明して、喜ばれる。	日々の会話の中で生活歴を把握するように努めている。家族と法事や散髪屋に行かれる方もおられ、外出の準備をさせて頂いている。元職場同僚の方から退職者会の会報等が送られてくる方もおられる。コロナの影響で面会制限があり、家族と電話で話して頂いた。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の中をとりつぎして、おだやかに、過ごされている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、家族より、声をかけられて、話が、施設、敷地内で、盛り上がる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向に沿った対応、提示と選択。	入居時は、居宅時代のケアマネの情報を参考にすると共に、ご本人や家族との会話の中から生活歴等を把握し、センター方式(1枚)やアセスメントシートに記録している。会話が困難な方も表情や行動を観察し、思いを察するように努めている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族より、生活歴、暮らし方、生活環境等、話をされる方は、傾聴し、話をされない方は、配慮して、対応する。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活スタイルは、それぞれ違い、個々の要望に応じて、対応している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族と話を伺い、反映している。	職員全員で各活動の「能力チェック」や心身状況の変化等を共有している。介護支援専門員と職員が計画の原案を作成し、起き上がり、立ち上がり、歩行等の能力を基に、ポータブルの置き場所も個別に変えている。日々のケアの留意点を管理者が手書きし、職員と共有している。	今後も更に、日々の役割やできそうな事を含む24時間全般のアセスメント内容と介護計画(日課表も含む)を作成し、計画実施前に家族との話し合いを行うと共に、体調変化に応じたケアプランの見直しも適宜行っていく予定である。

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の記録用紙の提案(個別)や、心身の状態変動にて、変更を、行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の上履きの購入支援。リハビリ科の療法士に、みたててもらい、購入。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域協力住民との連携で、ボランティア活動の受け入れや、地域協力住民の活動支援を、行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者・利用者家族に対して、医師より説明、同意を得ている。	職員全員で体調確認し、体調変化時は管理者とホームの看護師(主任)、訪問看護師に報告している。通院の送迎は主に管理者が行い、受診時に医師と情報交換している。病院のリハビリ職からもアドバイスを頂き、受診内容は家族と職員と共有している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的対応は、訪問診療・訪問看護、外来との報告・連絡・相談を、行っている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、家族・本人の意向を大切に、退院にむけての、働きかけを支援し、退院に至るケースあり。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・本人・医療機関・施設で、共通認識を持ち、対応している。	必要時は訪問診療や訪問看護を利用できるが、介助しても食事や水分が入らない場合は主治医から病状や入院の必要性を家族に説明している。「看取りにおける同意書」を作成し、医療処置等の希望を確認している。「最期までホームで」「終末期は(医療行為は)何もしない」等の意向を伺い、誠心誠意のケアが行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に、対応ができるよう、マニュアルをつくっている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	水害対策における訓練を、法人全体にて、実施。在宅事業所の支援体制を行っている。	消防署と訓練(夜間想定)し、民生委員の方が利用者役になって下さる。災害時は居室のベランダに避難し、窓を閉め、シャッターは閉めないルールになっている。ホーム前の道路が冠水する時があるが、元々敷地を地上げしており、冠水時もホーム内待機となっている。飲料水とトルト食品を備蓄している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的人権の尊重・思いを受けて、対応。	法人研修の出席簿も作成し、職員全員が更なるスキルアップができるように努めている。職員個々の個性や背景を把握し、言葉遣いの指導を続けると共に、羞恥心に配慮し、ドアを閉めておむつ交換するように努めている。	職員の言動で気になる時は主任などが注意しているが、今後も語尾や方言が強くなっていないかを職員個々に振り返ると共に、更なる対策を検討していく予定である。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言語・非言語にかかわらず、利用者の心身の状態像をみて、対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活スタイルを大切に、支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の意向や気持ちで、おしゃれされるよう、支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ミキサー食 刻み食 軟ご飯等の工夫。	病院の管理栄養士の献立を参考に、3食とも職員が手作りしている。畑のきゅうり等も使用し、ご利用者もフキの皮むきや豆の筋むき等をして下さる。アレルギー食材を台所に掲示し、他の献立に変えるなどの配慮を続けている。今後もご利用者の役割を増やしていく予定である。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分補給は、10:00 15:00摂取の機会を設定している。栄養バランスのよいように、食事、献立を、つくっている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアチェック表にて、確認している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を、用いて、排泄パターンを確認して、対応している。	布の下着を着用し、排泄が自立している方もおられる。必要な方は個別の排泄支援を行い、事前誘導を行う事で失禁は減っている。立位や歩行能力に応じてトイレやポータブルの必要性を検討すると共に、パッドを外される方の理由を分析し、ご本人本位の対策を考えている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄が、安心、安全にできるよう、医療との連携を、行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日には、本人に、入浴意思確認して、対応している。	体調に応じてシャワー浴や、職員2人介助で入浴される方もおられ、湯船に浸かり、職員との会話を楽しまれている。肌の状況に応じて低刺激石鹸等を使用する方もおられ、できる所は洗って頂いている。入浴以外は、トイレでの陰部洗浄や朝晩のケアを行い、感染予防を続けている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	心身の状態確認と本人の意向で、休息支援を、行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方時、薬の説明書を、連絡ノート、観察記録に添付している。服薬介助は、利用者の心身の状況に応じて、介助方法を個別に行っている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	気分転換できるよう、本人の嗜好を尊重して、対応。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望や家族の希望により、外出、外泊ができるよう、支援している。	コロナの影響で外出制限中であるが、気候に応じて日向ぼっこをされたり、母体病院の通院時に桜の花見等を楽しまれた。2019年度はお弁当を持参し、マイクロバスで花見見物を楽しまれ、家族と一緒に散髪や自宅、郵便局、法事、外食に行かれる方もおられた。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の所持金は、ない。必要なものは、家族が、購入されている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との手紙を、代読して、支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高いホールでの利用者間の語らいは、心地よい空間。	リビングと廊下の天井が吹き抜けで、天窓もあり、開放的な空間となっている。台所もリビングと一体化し、料理の香りや食材を切る音などを感じることができる。毎日の掃除を徹底し、換気も行われ、冬は床暖房や加湿器を使用し、温湿度管理を続けている。男性のご利用者も洗濯物を畳んで下さり、新聞等を読まれている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者間の語らいが、できるよう配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人使用のオーバーテーブルの持ち込みや時計、カレンダーを使用されている。	各居室に洗面台があり、ベッドも備え付けている。テレビ、衣装ケース、目覚まし時計、ぬいぐるみ等を持ち込まれ、家族が書かれた絵手紙や家族の写真の壁に貼られている。居室がわからない方は、職員の誘導や介助で戻られている。適宜、掃除や換気が行われている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、段差等の配慮を、行っている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				